

2004 年 1 月の東北地方の天候

【 1 月の特徴 】

- ・ 月平均気温は平年並だが、上旬は高温

（ 1 ） 概況

上旬は、強い寒気の南下は一時的で長続きせず、気温は高かった。しかし、中旬以降は、強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まり、荒れた天気となる時期があった。このため、中・下旬の気温は平年並だった。

月平均気温は平年並。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。月降雪量は平年並（平年比93%）。

（ 2 ） 天候経過

上旬： 2～3日と7～8日、10日に東北地方を低気圧や寒冷前線が通過し、東北日本海側を中心に雨や雪となった。通過後は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪や雨、東北太平洋側は概ね晴れた。なお、7日の日中は移動性高気圧に覆われて東北地方は概ね晴れたが、7日夜の低気圧の通過後は一時強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まり、東北太平洋側でも雪となった。

平均気温は高い。降水量は、東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

中旬： 13日の低気圧の通過後、15日にかけて冬型の気圧配置が強まって荒れた天気となり、東北太平洋側でも内陸を中心に雪となった。19日は、日本海と日本の南岸を低気圧が進み、東北地方は雨や雪となった。その他の日は冬型の気圧配置が続いたが、12日や17日は高気圧に覆われて東北地方は概ね晴れた。

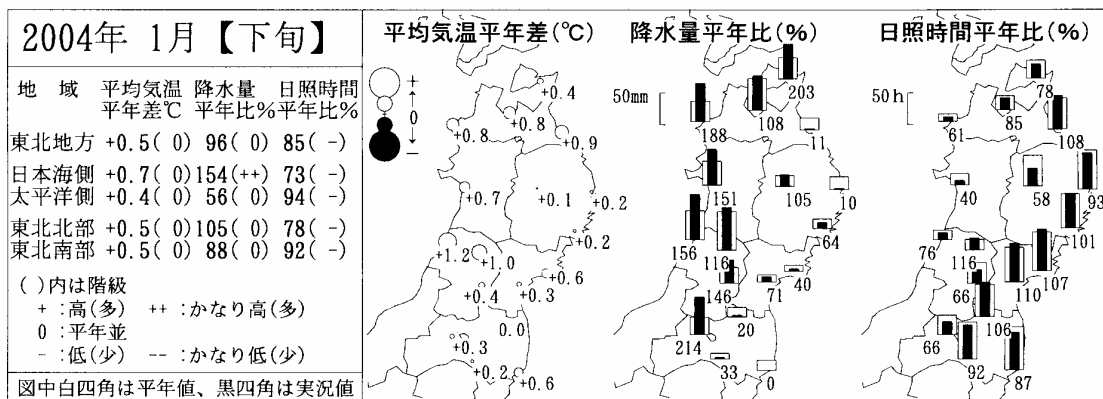
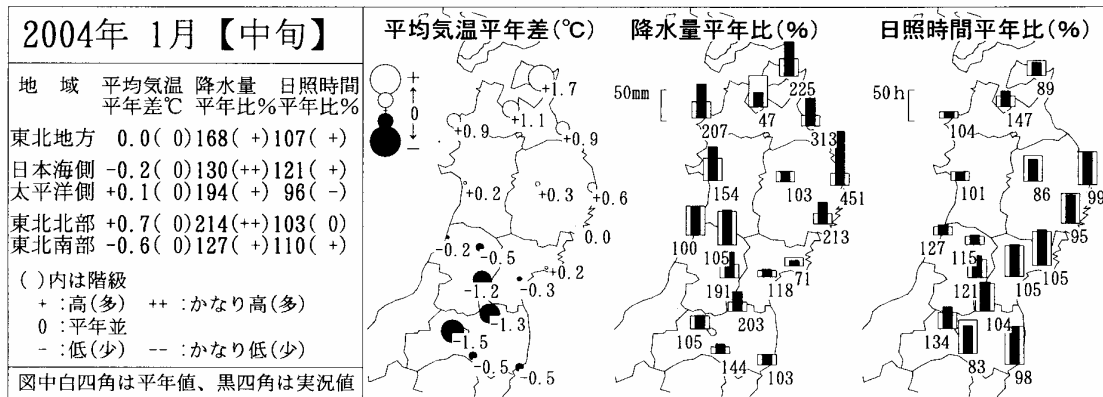
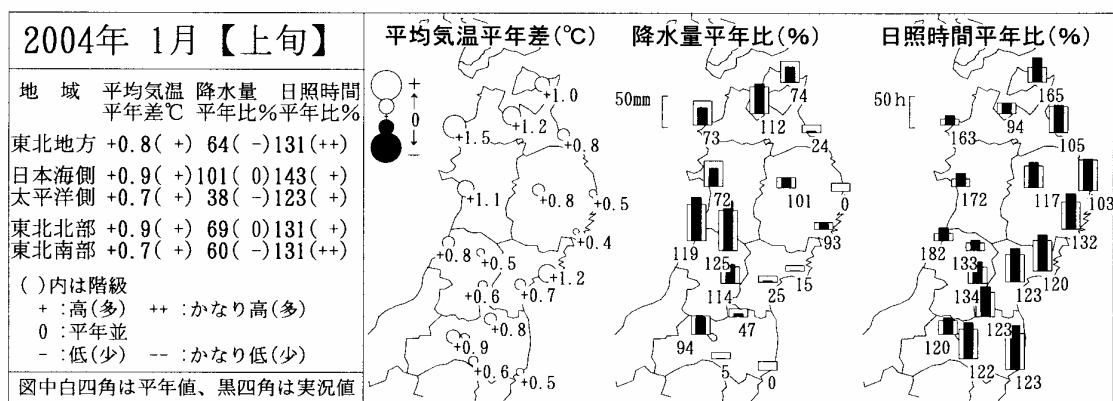
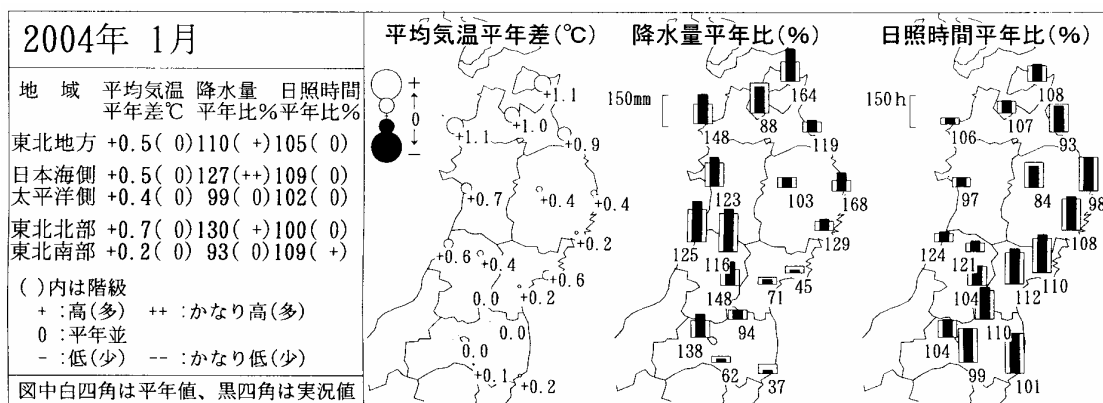
平均気温は平年並。降水量は、東北北部でかなり多く、東北南部で多い。日照時間は、東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。

下旬： 21日の低気圧の通過後、23日にかけて強い寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まった。このため、東北地方は荒れた天気となり、各地で大雪や強風による交通障害が発生した。なお、若松では23日の日降雪量が73cmと1月の極値を更新した。その後も冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪、東北太平洋側は概ね晴れた。

平均気温は平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は少ない。

注）気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。
平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注を参照して下さい。

(3) 2004年1月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



注) 細分地域

東北日本海側: 青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方

東北太平洋側: 青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方

東北北部: 青森県、秋田県、岩手県

東北南部: 宮城県、山形県、福島県

(4) 月気候表 (2004 年 1 月)

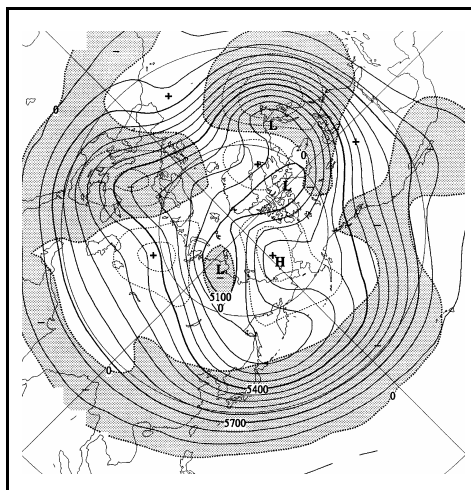
地 点	月平均気温(平年差)	月降水量(平年比)		月間日照時間(平年比)		月最深積雪(平年値)		月降雪量(平年値)	
	階級	mm	% 階級	h	% 階級	cm	cm 階級	cm	cm 階級
青森	-0.4 (+1.0) +	127.0 (88) -		60.9 (107) 0		59 (86) -		190 (271) -	
深浦	0.7 (+1.1) +	143.5 (148) + *		33.1 (106) 0		43 (31) +		99 (75) +	
むつ	-0.5 (+1.1) +	157.0 (164) +		83.4 (108) +		65 (47) +		--- (---) ---	
八戸	-0.3 (+0.9) +	57.5 (119) +		124.8 (93) -		5 (18) - *		18 (39) -	
秋田	0.6 (+0.7) 0	141.0 (123) +		43.3 (97) 0		28 (31) 0		80 (98) -	
盛岡	-1.7 (+0.4) 0	52.0 (103) 0		103.9 (84) -		39 (27) +		92 (60) +	
大船渡	0.9 (+0.2) 0	56.0 (129) +		161.1 (108) +		12 (7) +		19 (13) +	
宮古	0.6 (+0.4) 0	88.5 (168) +		160.4 (98) 0		6 (12) 0		10 (21) 0	
仙台	1.7 (+0.2) 0	23.5 (71) 0		169.7 (112) +		11 (11) 0		13 (20) 0	
石巻	1.1 (+0.6) 0	15.0 (45) 0		184.7 (110) +		6 (8) 0		--- (---) ---	
山形	-0.5 (0.0) 0	111.5 (148) + *		93.6 (104) 0		54 (37) +		156 (109) +	
新庄	-0.9 (+0.4) 0	210.0 (116) 0		52.1 (121) +		70 (97) -		--- (---) ---	
酒田	2.1 (+0.6) 0	190.5 (125) +		49.3 (124) +		14 (27) -		57 (80) 0	
福島	1.4 (0.0) 0	41.0 (94) +		150.6 (110) +		22 (18) +		62 (44) +	
若松	-0.7 (0.0) 0	112.0 (138) +		84.3 (104) 0		69 (44) +		157 (139) 0	
白河	0.3 (+0.1) 0	19.0 (62) 0		158.6 (99) 0		13 (14) 0		--- (---) ---	
小名浜	3.8 (+0.2) 0	17.0 (37) -		192.2 (101) 0		0 (3) -		0 (5) -	

観測値欄の記号は、×：欠測)：欠測日を含む : 現象なし ---：観測をしていない
階級は +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) *は「かなり」を表す

(5) 2004 年 1 月の循環場の特徴

500hPa 高度を見ると、北海道以北はタイミル半島付近に負偏差がある他は、広く正偏差に覆われた。特に、ベーリング海から極付近にかけては気圧の尾根となり、正偏差が強かった。一方、北海道以南は広く負偏差に覆われ、高緯度の寒気が南下しやすい状態だった。

東北地方では、上旬は強い寒気の南下は一時的で気温は高かった。中旬以降は、強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まる時期があった。ただし、寒気は西回りで南下したため、東日本以西では気温は平年を下回ったが、東北地方では気温は平年並となった。



2004 年 1 月の月平均 500hPa 高度
実線は高度(m)、破線は偏差(m)、
間隔 60m。陰影部は負偏差域。

注) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の 3 階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000 年の 30 年間に
おいて出現した値を等確率 (33.3%) に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率
10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文
にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細
分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(6) 月統計値の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間、月最深積雪、月降雪量の 3 位まで。ただし、新庄・むつ・白河の月最深積雪は、統計期間が短いため 1 位に該当した場合のみ示す。石巻の月最深積雪は、統計期間が短いため、極値・順位を求めない。新庄・むつ・石巻・白河の月降雪量は観測していない。)

月降水量 少ない方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量(mm)	これまでの最小(mm)(年)	統計開始年	平年値(mm)
2 位	白河	19.0	9.5(1999)	1995	30.6

月間日照時間 多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	日照時間(h)	これまでの最大(h)(年)	統計開始年	平年値(h)
3 位	新庄	52.1	67.4(1989)	1986	43.1

月最深積雪 大きい方からの極値・順位更新

順位	地点名	最深積雪(cm)	起日	これまでの最深(cm)(年)	統計開始年	平年値(cm)
1 位	むつ	65	28	59(2001)	1999	47